

INFORMATION

プラネタリウム夏の番組

クイズ! スター&プラネット2001

毎年夏の恒例「クイズの出るプラネタリウム」。今年は「変わる」をテーマに、星や宇宙の「変わる」にちなんださまざまな話題をクイズを交えて紹介します。

7月14日(土)→9月2日(日)

夏休み平日	11:30	15:30
土曜日	11:30*1	13:30 17:30
日祝日	11:30	15:30

*1 第2・第4土曜日は子ども番組「キッズ・アワー」になります。

星空ライブトーク

今夜の星空と月替わりの天文の話題を解説。

7月「火星接近!」

8月「七夕の星たち」

9月「ハッブル望遠鏡が見た宇宙」

土曜日	15:30
日祝日	13:30

※このほか夏休み中の金曜日18:00に「今夜の星空」を放映します。

MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

満天の星空と心地よいサウンドが織りなすファンタジックなひとときをどうぞ。

7月「カンツォーネ特集」

8月「福山雅治特集」

9月「谷山浩子特集」

土曜日	19:00
	7月 7・14・21日
	8月 4・11・25日
	9月 8日

■料金 (入館料を含みます)

大人400円/小・中学生150円/幼児50円

第2・4土曜日は小・中学生以下無料

■休館日・休演日

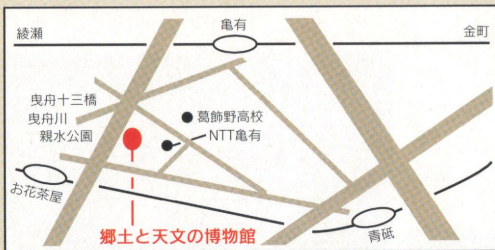
月曜日(祝日は開館)/第2・4火曜日

9月1日(土)(特別イベントのため)

9月4日(火)~7日(金)(番組入替のため)

■上映15分前までにご来館ください。

交通のごあんない



■京成線「お花茶屋」から8分

■JR常磐線「亀有」から25分

■京成タウンバス

(有57 亀有一タウンバス車庫)

[共栄学園] 下車徒歩5分

■駐車場に限りがございます。

電車・バスをご利用ください。

インターネット・ホームページ <http://www.obs.misato.wakayama.jp/~katusika/index-j.html>

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

TEL 03(3838)1101

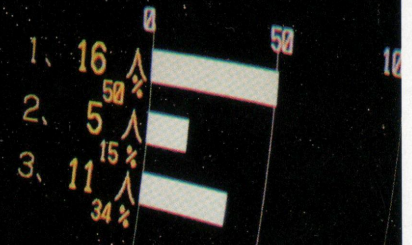
R100

このリフレットは再生紙を使用しています。

1秒間にあなたの体を
通り抜けたニュートリノの数は?

答え
1 一個
2 百個
3 千兆個

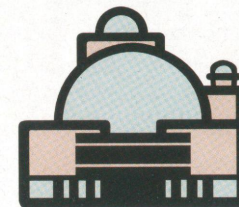
ただいまの集計結果



PLANETARIUM

クイズ! スター&プラネット2001

Vol.41 2001・夏



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

この夏、ミラが見られる!



■夏の明け方に現れる化け鯨

今回は、夏の星座というより、夏の明け方に見える秋から冬にかけての星座ですが、くじら座を紹介しましょう。

くじら座は、夏の明け方の南東の空に輝いています。残念ながら明るい星は2等星が一つだけで、あとは暗い星ばかりなので東京では見るのがちょっと難しいかも知れません。

この星座はギリシア神話に登場する海の魔物・ティアマトの姿とされています。海の神ポセイドンの命令で、古代エチオピアの国を襲い、その生贖としてささげられたアンドロメダ姫を一呑みにしようとします。しかし、そこを通りかかったペルセウス王子によって退治され、大きな岩となって海の底に沈んでいきました。

■変光星・ミラに注目!

このくじらの心臓に赤々と輝くミラは、332日の周期で明るさを2等星から10等星まで変える『変光星』です。明るい頃は肉眼でも見ることができますが、暗くなると肉眼ではまったく見えず、大きな望遠鏡を使わないと見ることはできなくなります。ミラとは『不思議な星』という意味。この星が明るさを变えることに気づいた天文学者が、不思議に思って名付けたのでしょう。

ところでこのミラが、今年の8月25日ごろに一番明るくなります。この頃は東京の空でも見つけることができるはず。ぜひ早起きをして挑戦してみてください。

ところでどうしてミラは明るさを变えるのでしょうか。それは番組を見てのお楽しみ!

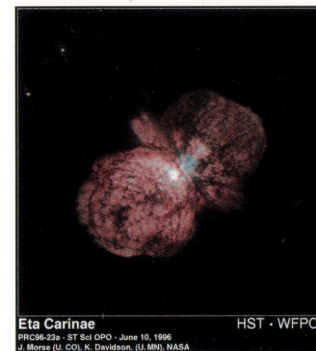
今も変わり続ける宇宙!

さあ、今年も『クイズ! スター&プラネット』の季節がやってきました。今年のテーマは『変わる』。一見何も変わらないように見える宇宙ですが、実は変化に満ちた世界です。ここでは、番組で紹介した以外にもまだまだある、星や宇宙の『変わる』話題をご紹介します。

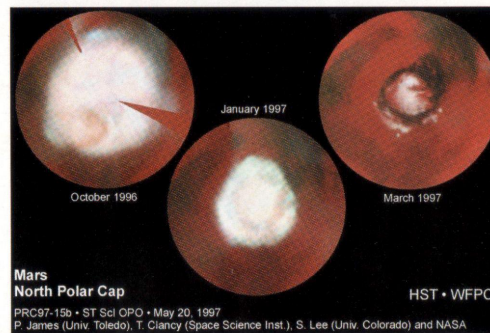
■明るさが変わった星

りゅうこつ座のエータ星(エータ・カリーナ)は、現在5等星ほどの暗い星ですが、19世紀の一時期にはマイナス1等ぐらまで明るくなり、やがて7等星まで急激に明るさを变えたそうです。この星は太陽の100倍ぐらりの重さがあり、まもなく超新星爆発を起こして最期を迎えるだろうと言われています。

ハッブル宇宙望遠鏡でエータ・カリーナを見ると、ガスや塵が吹き出して星を覆っている様子がわかる。(NASA/STScI)



Eta Carinae
PRC98-23a - ST ScI OPO - June 10, 1998
J. Morse (U. CO), K. Davidson (U. MN), NASA
HST - WFPC2



Mars
North Polar Cap
PRC97-15b - ST ScI OPO - May 20, 1997
P. James (Univ. Toledo), T. Clancy (Space Science Inst.), S. Lee (Univ. Colorado) and NASA
HST - WFPC2

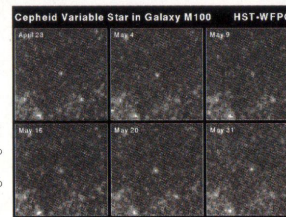
■火星の季節が変わる

これはハッブル宇宙望遠鏡で見た火星の極冠。ドライアイスと氷からできています。冬の頃は大きくなっていますが、暖かくなるとともに小さくなっています。火星にも季節があることがわかります。

白い部分が火星の北極の極冠。(NASA/STScI)

■明るさを变える宇宙の灯台

M100と呼ばれる銀河を詳しく見ると、規則的に明るさを变える星(ケフェイド型変光星)がいくつも見つけられました。この変光星は明るさを变える周期から本当の明るさがわかるため、天体の距離を決める「宇宙の灯台」として使われています。この方法で求められたM100までの距離は5600万年光年でした。



ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた銀河M100(右)と、ケフェイド型変光星が明るさを变える様子(左)。(NASA/STScI)



M100
HST-WFPC2